

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)	◎	家電量販店（店員）	・厳冬が続けば季節商材が伸びるとみており、特に、売上構成比の高いエアコンが伸びれば良くと期待できる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・今月の景気が良いように、3か月後も祭礼等の開催で、県庁所在地周辺への来客が予想されるため、景気は良くとみている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・管轄エリアについては、春の行楽シーズンが訪れることにより、県内旅行者やインバウンドの増加が見込まれる。加えて当地の3か月予報では晴れの日が多く、移動しやすい天候と予想されるため、やや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産状況は順調で、街の雰囲気も明るい。しかし、米国の新大統領の政策が心配なところである。
	○	一般レストラン（経営者）	・年末年始と冬休みの時期でイベント等もあるため、人出が増える。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・年始は宿泊、宴会、レストランいずれも例年とおりの予約を受けている。宿泊はビジネス利用が主だが、堅調に推移している。唯一の懸念は新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのまん延である。12月も新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ関連での宴会キャンセルが無視できない数で発生している。これ以上まん延すると、医療関係の予約がストップしてしまう懸念がある。
	○	旅行代理店（所長）	・年末の降雪もあり、スキー需要並びに雪を求めて来訪するインバウンドに期待を持てる。
	○	タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなってきたので、この先も良くとみている。
	□	商店街（代表者）	・寒さが厳しくなる季節に向かい、これといった景気を左右する要素もない。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・現状維持が良いところではないかと考える。国の補助金等で再び電気、ガス、ガソリン等が値下がりしてくれば、状況は違うだろうが、変わらない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・長期予報によると、例年並み又は例年より高い気温の傾向となることから、客足の落ちる冬季シーズンといえども、例年並みの売上は確保できると考える。国内外問わず、旅行客の出足も堅調で、特に、海外からの観光客は円安を背景に購買意欲の高い状態が続いている。この状況が続くと予想して、景気は変わらない。
	□	一般小売店〔青果〕（店長）	・主力の干し芋が、夏の暑さや残暑等の影響で、さつまいもの生育状況が悪く、4割減少している。干し芋も、糖化が進まず、固くて余りおいしくない等の理由から、贈答がかなり少ない。
	□	スーパー（総務担当）	・物価高が続くなかで、賃上げ等が改善されなければ厳しい。
	□	スーパー（商品部担当）	・総合的に集客力の低下が大きな要因の1つだとみられる。特に、商圏内の競合店やドラッグストアの開店の影響が尾を引いている。
	□	コンビニ（店長）	・12月はクリスマス以降、非常に販売が低迷した。これ以上下振れしないようにと願っている。
	□	自動車備品販売店（経営者）	・今回まあまあ良かったのは、3か月間冷え込んでいた分の戻りである。3か月後に良くなるという明確な根拠がないため、どちらともいえない。
	□	その他専門店（総務担当）	・見積案件が伸びない。
□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・年末年始の人流増加が維持できるよう願っている。	
□	都市型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス感染症発生前の件数、売上に戻ってきている。今後は単価を上げる努力をしていかないと伸びないと考えている。	
□	旅行代理店（従業員）	・根拠はないが、このまま動かないとみている。バス代等、原価が掛かっているものの、その全てを価格転嫁できているわけではないため、動きがあっても利益につながらない想定である。	

□	旅行代理店（営業担当）	・観光産業への支出は、生活基盤が落ち着いてからと後回しになるため、しばらく変わらない。
□	タクシー運転手	・新年会が終わると、また閑散とするとみている。
□	通信会社（社員）	・今後2～3か月では変わらない。
□	通信会社（営業担当）	・景気が上向く好材料がなく、唯一好調なインバウンド関連も一般家庭には直接的な影響がない。引き続き、実質賃金の低下が続く。
□	通信会社（総務担当）	・3月は新規需要が見込めるため、やや良くなる。ただし、生活必需品が軒並み値上がりしていることから、客が買換えに回せる資金が減っているため、変わらない。
□	テーマパーク（職員）	・3月末頃までは、降雪や寒さによる影響から来園客数も伸びず、変わらないとみている。
□	美容室（経営者）	・人々と社会がより豊かになるには、企業が今以上に自由に活動できる規制緩和や減税が必要である。年収の壁を僅かばかり引き上げる等の単純な方法では実現しない。
□	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・現状維持でいくしかない。同業者も同じようなことを話している。
□	設計事務所（所長）	・あらゆる物の価格高騰が続いており、今後も先行きは不透明である。
□	住宅販売会社（経営者）	・街のなかをみても、空室のアパート、店舗等が目立ってくるようになってきている。ただし、シャッター通りになるほどではないとみている。
□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・例年同様に年度内の残りは、次年度の補助金を見据えた営業活動を行うため、今後2～3か月は余り変わらない。
▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・1～3月までは一服というような状況である。
▲	百貨店（営業担当）	・ガソリン価格の上昇や物価高による消費行動の抑制は、依然として続く予想される。今後数か月は現状維持からややマイナスが見込まれる。
▲	百貨店（営業担当）	・生活必需品の値上げは依然として続き、その都度消費マインドは低下していく。正月やバレンタイン、入学卒業返礼といったモチベーションはあるものの、そのなかでの購買動向に追い風は吹かないものと予測しており、何らかの節約意識が働くと考えている。
▲	百貨店（店長）	・現在の様々な状況が好転する想定はなく、しばらく同様の商環境が続き、徐々に景気も悪くなっていく。
▲	コンビニ（エリア担当）	・12月は年末年始の帰省客や行楽客が見込まれるものの、年始以降は閑散としてくるため、やや悪くなる。
▲	衣料品専門店（販売担当）	・年末に向けた時期の予想外の売上減少というか、売上につながるような状況がなかったので、これから1月、相当に暇な2月を迎え、年度末の3月も何とも期待を持っていないような状況のため、やや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・受注が増加していないため、売上も減少している。
▲	一般レストラン（経営者）	・給料はなかなか上がらず、上がったとしても物価高で、ますます外食機会は減るとみている。
▲	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・物価高騰など明るい要素が見当たらない。
▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・主力の給食部門において、主となる人件費や食材費の上昇傾向が、今後も続いていく。取引先からも取引条件の見直しについては理解をもらっているものの、見直しは後追い傾向が強いため、当面は収支の厳しい状況が続く。
▲	観光型ホテル（経営者）	・繁忙期と閑散期の差もあるが、1月から春休みを除いた4月上旬は、基本的に閑散期に入るため、やや悪くなる。
▲	通信会社（局長）	・現状、全体が値上げに動いているが、給与がそこまで上がることは予想できず、政策もよく見通せない。消費者は今後の値上げの状況などを不安に思い、更なる買い控えにつながり、消費は落ち込むため、景気回復にはつながらない。
▲	ゴルフ場（従業員）	・物価上昇しているなかで、単価を上げられない状況が続いている。
▲	住宅販売会社（経営者）	・円安傾向が収まる気配がなく、全体的なコストが上昇している。状況の悪化が予想される。

	×	通信会社（経営者）	・物価高で消費者が物を買わない。日本銀行の景気判断では「緩やかに回復している」とのことだが、企業の倒産件数はずっと右肩上がりで増え続けている。一体、どれだけの人が景気が良いと考えているのか疑問である。仕入コスト高と人件費高騰で、今後も倒産件数は増えていくとみている。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	金融業（営業担当）	・今後2～3か月の景気は、製造業、建設業、不動産業等は今月より良くなる。
	□	食料品製造業（経営者）	・消費者はエネルギーコストや食品等の価格上昇から生活防衛に走り、財布のひもが固くなる。
	□	化学工業（管理担当）	・物価が高止まりしていて、下がるものはない。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・物価がこれからどのくらい上がるか分からない。それが不安材料になっている。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・人手不足が懸念される。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・明るい未来を予想することができない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・思っていたより、10～12月は追加が続いて量が増えた。1～3月はどうなるか分からないが、もしかしたら上向くかもしれないし、変わらないかもしれない。今のところはみえない。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・現状、売上のまずまずだったが、今後2～3か月先がまるで分からない。良くはならないと考えている。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等はまだ続いているため、変わらない。
	□	輸送業（営業担当）	・新年度に向かい、新生活用品、白物家電、生活雑貨等の輸送量は前年並みを確保予定である。ただし、燃料価格の高騰やドライバー不足等の状況もあり、車両確保は割高となるため、利益確保は難しくなりそうである。
	□	経営コンサルタント	・大手及び中小企業の来年度の賃上げのトレンドは上昇基調という流れで妥結が進めば、消費面に追い風となり得る。一方で、海外との貿易や国際収支、為替レート、国内の経済政策や産業活動の結果動向が不透明であるため、地域経済にとっての好材料は多くない。
	□	司法書士	・仕事量がやや良い状態はこのまましばらく続くと考えている。
	□	社会保険労務士	・来年度予算案が通らずに賃上げに影響が出る等がなければ、今と変わらない。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・季節的な傾向で、やや悪くなる。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・現状では2025年に増産計画がある案件は極めて少なく、このままでは、全体的に縮小していく傾向に歯止めがかからない。
	▲	建設業（総務担当）	・全体的な仕事量がとにかく少ないため、先行きも不安である。補正予算の効果が出てきてくれるとよいと考えている。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・中国の景気が悪化している。
	×	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産がこれから減産になるため、この先はかなり厳しい状況になる。
	×	不動産業（管理担当）	・物価上昇は収まる心配がなく、資材等の注文をするたびに価格改定が行われる状況で、燃料費や光熱費もまだ上がっていくとみている。また、新規雇用も賃金を上げないと募集できないため、コストがますます増加し、利益が減少すると見込まれる。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（経営者）	・寒波や天候の影響も出てくるだろうが、公共事業関連、上下水道、道路関係の工事が進んできている。依然として、食料品、生鮮食料品、衣料品等は、価格も抑えるところは抑えながら、恐らく横ばいでいくとみており、住宅関連、生産機械関連も休みが多いため、売上はダウンし、総体的には横ばいとみている。
□	人材派遣会社（社員）	・求人数に対して求職者数が不足している状況に変わりはない。賃上げが進めば、求職者の動きも活発になる。	

□	職業安定所（職員）	・新規求人数の動向は、医療、福祉分野は増加傾向で推移している。建設業や製造業は減少傾向となっている。卸・小売業、サービス業は増減を繰り返している。
□	学校〔専門学校〕（副校長）	・原材料価格の高騰が叫ばれているなか、周辺企業ではかなりの切迫感があり、厳しい状況である。しかし、消費意欲はさほど落ち込んでいるとは感じられず、景気は変わらない。
▲	人材派遣会社（管理担当）	・派遣で働く人材が不足している。また、特定技能制度等の採用で、派遣人材の採用枠が少なくなっている。
×	*	*